

社会貢献活動

102-15, 103-1, 103-2, 103-3

花王は、世界中のすべての生活者のKirei Lifestyle と、豊かな共生世界の実現に向けて社会貢献活動を推進しています。

花王が目指す社会課題の解決にあたっては、地域社会やNGO / NPO と連携しながら、長期視点で取り組んでいます。また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のための芸術文化支援、(公財)花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

清潔・衛生や健康は、人の暮らしの基盤ですが、経済格差、ジェンダーなどさまざまな格差をもたらす不平等から、現代の進歩に見合ったサービスを受容できていない人たちが数多く存在します。さらに、新型コロナウイルス感染症の脅威は、石鹼や清潔な水などにアクセスできない脆弱な立場にある30億人※の人々に大きな打撃を与えています。

また、先進国、新興国、開発途上国、それぞれの社会で抱える課題は違っても、毎日が充実し、心身が満たされこころ豊かに暮らせる社会がより一層求められていますが、世界幸福度調査では、世界全体の傾向として心配や悲しみなどネガティブな感情が増加しているのが現実です。

さらには、気候変動やごみ問題など、私たちの暮らしを支える環境に対する問題も、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

すべての生活者がその課題を意識し、日々の生活の中で行動を変えていく必要があります。

これら社会的課題の解決に向けて、企業はその事業

活動を通じて貢献するとともに、企業の強みを活かした技術支援、啓発活動や寄付、連携などを通じた包括的な視点での取り組みを行なうことがますます重要になってきています。

※WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) 2019 「Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017: Special focus on inequalities」

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失うだけでなく、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

花王は消費財メーカーとして常に暮らしに寄り添う事業活動を行なってきました。近年、生活者は利便性や満足度の向上だけでなく、よりよい社会に向けて正しい選択と行動をしたい、また周囲の人々やとりまく社会も同様であってほしい、という思いを抱いて生活しています。

花王は、衛生と水、健康、生活の質の向上、ごみ問題

など暮らしに身近な社会課題の解決に、これまで培ってきた技術、知見、ネットワークなどを通じて寄与することができ、また、生活者の思いに応える活動を行なうことができると考えます。

活動の結果、世界中の人々のこころ豊かで健康で快適な、持続可能な生活(Kirei Lifestyle)になくはならない存在になることをめざしています。

社会貢献活動

102-12, 103-1, 103-2, 103-3

花王が提供する価値

花王は事業活動を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、事業や製品では直接アプローチできない多くの生活者、特に最も弱い立場の人々も含めた、誰もがこころ豊かで健康で快適な生活を実現できる社会をめざし、社会貢献活動、啓発活動などを通じて、広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かした、美、健康、清潔、環境、生命の事業領域において、生活者が行動を変え周囲の人にも影響を与えられるような啓発活動や、技術支援、寄付、異業種連携・マルチセクター連携などの、さまざまな形で支援を行なっています。

また、多様なコミュニティが抱える社会的課題に寄り添い、その解決や地域活性化への貢献、芸術文化支援など、豊かな生活文化の発展に関わる支援を行なっています。

貢献するSDGs



花王グループ社会貢献活動のグローバルでの考え方

花王のパーパス「豊かな共生世界の実現」をめざし、世界中の全ての生活者のKirei Lifestyleを事業活動と社会貢献活動が一体となって推進します。

社会貢献活動では、「清潔」「美」「健康」「環境」「生命」の事業領域と多様なコミュニティに関わる社会課題を解決するとともに、それらの活動を通じて社員の挑戦や高い志の実現をめざします。

重点分野

- 花王が重視する社会課題
 - ・環境問題
 - ・高齢化
 - ・パンデミック
 - ・多様化の影響
- 社員活力の最大化

活動ガイドライン

- 生活者がKirei Lifestyleに向けて行動を変える後押しをする
- 誰も取り残さず一人でも多くの人にKirei Lifestyleを届ける

- 志を共にする社員・ステークホルダーと共創する
- 人と社会、地球、それぞれを思いやり、つながりを強化する

社会貢献活動 102-43, 404-2

教育と浸透

花王社員は、世界中の人々の暮らしに配慮し、事業活動や社会貢献活動を通じて、Kirei Lifestyle 実現に貢献していくことが大切だと考えています。

そのためには社員が、多様な社会や生活者の状況を学んだり、社会課題解決に取り組む人々と交流したり、自ら社会貢献活動に参加するなどして、視野を広げ、創造力、連携力などを高めて、モノづくりや社会貢献活動に活かしていくことが必要だと考えています。

イントラネットなどを通じて、定期的に社会動向などの情報を発信したり、NGO や社会起業家との交流の場、ボランティア活動への参加の機会などを積極的に提供しています。

2021年は、グローバルで、5,517人が、社員が参加できるプログラムやボランティア活動の提供や運営に努め、多くの社員の参加を促しました。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

世界中の人々がKirei Lifestyle を実現するため、社会貢献活動においては、ステークホルダーとの対話・協働を通じ、複雑化する社会からの要請をより深く理解するとともに、一企業では果たせない、よりインパクトの大きい働きかけができると考えて活動しています。

清潔・衛生・健康の分野では、地域の状況を深く理解し高い専門性を有するユニセフ、UNFPA などの国連機関やNGO、社会起業家などと、環境分野では生活者を巻き込み、行動変容が効果的に行なわれるよう、行政や自治体、学校、NGO などと連携した取り組みを行なっています。

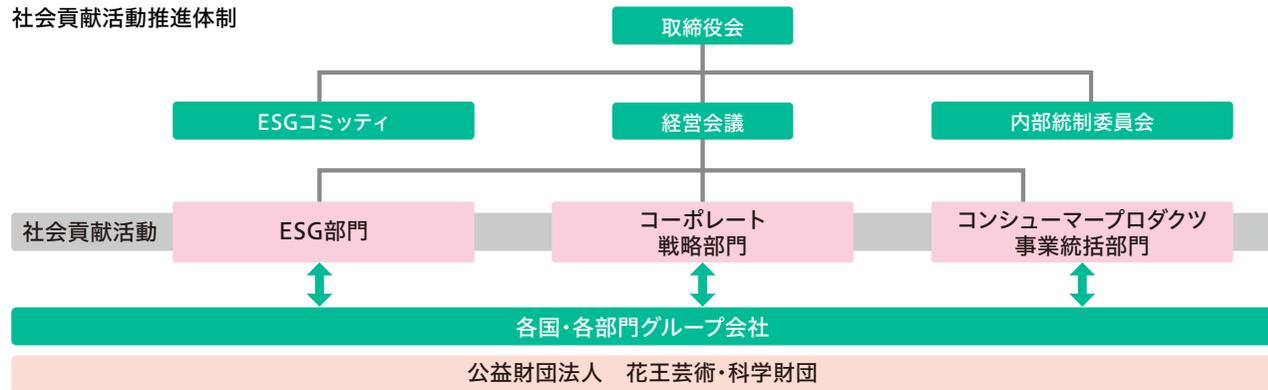
また、社員が社会貢献活動へ参加することは、会社へのロイヤリティを高め、事業の発展と社会へのさらなる貢献に向けた活力となると考えて、積極的なエンゲージメントに注力しています。

体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyle の実現のため、ESG部門が中心となり、コーポレート戦略部門、コンシューマープロダクツ事業統括部門、その他の関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。

国内外各社・事業場には、社会貢献活動調査を年1回実施して活動報告を受け、調査結果を共有しています。

社会貢献活動推進体制



社会貢献活動 203-1

中長期目標と実績

中長期目標

美、健康、清潔、環境、生命の事業領域に関わる分野を中心に、事業や製品では直接アプローチできない人々、脆弱な立場の人々も含め、世界中の誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう貢献していきます。

さらに、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、事業の発展と社会へのさらなる貢献に活かすことをめざします。

環境問題

サステナブルな暮らしに向けた環境コミュニケーションを実施し、生活者が暮らしや生活スタイルを変えたり、社会のムーブメントになることをめざす。

①花王国際子ども環境絵画コンテスト

第12回コンテストの実施。過去の入賞作品の展示活動による環境について考える機会の提供。

②未来洗浄研究会

産学公民での未来の洗浄について、議論・提案する場の提供。

パンデミック／高齢化／多様化の影響

花王の総合力を活かして生活者の啓発、支援、協働を推進し、世界中の人々が、誰ひとり取り残されることな

く、安心して年を重ね、健康に、より清潔で、自分らしく生きられるような社会をめざす。

①ベトナム学校衛生プロジェクト

2021～2023年の3年間で、支援が必要な地域において学校を中心とした水と衛生サービスへのアクセスを促進・強化。

3年間で、生徒、教員のべ26,580人にアプローチ。

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上
ハノイ医科大学病院での感染管理・衛生環境の向上をめざした取り組みを実施。2018年からの5年間で他病院も展開。

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

ハノイ市内小学校で手洗い啓発を実施し、清潔・衛生習慣の定着。

④衛生奨学金制度

大学院修士課程で食品衛生・衛生管理を学ぶベトナムからの留学生1名に奨学金支援。2018年からの6年間で3名を支援。

⑤ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

低価格生理用品の製造販売をめざす社会起業家の支援と上市、生理用品の普及拡大。

⑥ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
- ・社内プログラムを通じたがん教育プロジェクトへの寄付の実施。

社員活力活性化

社会貢献活動への社員参加を推進し、社員の成長と活力を最大化し、よきモノづくりや事業機会の創出、社会へのさらなる貢献のために活かす。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

責任ある消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

社会インパクト

衛生・清潔や健康の正しい習慣の普及と定着により、支援するコミュニティの衛生や健康状況の改善や中長期的な生活の質の向上を期待しています。

また、生活者への環境コミュニケーション・環境啓発を実施することで、自ら行動を変え、それを周囲に広げていく生活者が増え、サステナブルな社会の実現に向けた原動力になっていくと考えています。

さらに、社会的活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、より革新的で価値の高いよきモノづくりや社会貢献活動に活かされ、社会に新たな価値を提供できることを期待しています。

社会貢献活動 203-1

2021年の実績

実績

環境問題

- ①第12回花王国際こども環境絵画コンテストの実施(7,009点)、動画コンテンツ制作とオンライン公開、入賞作品の展示活動(社内外66カ所)
- ②未来洗浄研究会セミナー開催(5月、6月)、産官学の330人以上が聴講

パンデミック／高齢化／多様化の影響

- ①ベトナム学校衛生プロジェクト
 - ・ディエンビエン省内3県7つの自治体で教員やボランティア指導員、保健師計48名に対する衛生モデル実践のための指導者向け研修を実施
 - ・ディエンビエン省内7校600人の生徒に、水と衛生に関する理解度把握のための小規模調査を実施、結果に基づいた学校ごとの活動計画を策定
 - ・ディエンビエン省中学校7校(生徒2,396人、教員230人)での衛生トリガリングセッションを実施
 - ・ディエンビエン省内3県22の幼稚園と小学校に計333個の浄水器のセラミックフィルター用コアを提供。生徒7,872人、教員492人が清潔な水を継続

して使用可能に。

- ・世界手洗いの日
「世界手洗いの日」にあわせて、ディエンビエン省の20校でイベントを実施。6,000名以上にメッセージを直接伝達したほか、省のテレビ番組でも放映
- ②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上
新型コロナウイルスのベトナム国内感染拡大に伴い病棟での活動を中断、延期。
- ③ハノイ市内小学校での手洗い啓発
ハノイ医科大学と協働し、前年の小学校での啓発で得られた知見を活かし、教材を改善。
- ④衛生奨学金制度
日本の大学院修士課程で留学生を受け入れ。2020年4月より2人目の留学生を受け入れ(2022年3月に卒業)。3人目の留学生の受け入れは新型コロナウイルスの影響により2023年に延期。
- ⑤ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト
上市に向けた生産体制の構築、使用調査に向けた準備の実施。
- ⑥ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
- ・10月～11月に、アジア事業展開国の一部とロシアの花王グループ会社9拠点で化粧品カウンセリングコーナーの美容部員や社員が啓発活動を実施
- ・特設ウェブサイト開設による情報提供。日本版サイトでは英語での情報も記載
- ・対象製品購入やクリック募金に応じた寄付
- ・異業種企業とのコラボレーションによる啓発活動
- ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
- ・社員とその家族向けのピンクリボンセミナーをオンラインで実施
- ・社員参加型の寄付プログラム:ピンクリボンフォト募金

社会貢献活動 203-1

社員活力活性化

- ①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「花王ハートポケット倶楽部」の運営
 - ・会員数3,447名(2021年12月20日現在)
 - ・寄付件数44件/寄付金額11,503,700円
 - ・活動レポート ウェブ版(社内向け活動報告書、年1回発行)
- ②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化
 - ・2021年度 66件
- ③社員参加型のイベント企画:東日本大震災の被災地ボランティア、花王社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、事業場地域での地域貢献活動などを社員に提供

社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するため、国内外の関係会社、事業場、関連部門に、活動調査を実施。2021年の社会貢献活動費は、花王全体で16億1,700万円(人的貢献3,200万円、物的支援7億3,800万円、寄付金4億円、プログラム支援4億4,800万円※事業を通じた社会貢献活動を含む)となりました。



Corporate Citizenship Activities
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society

実績に対する考察

2021年は、継続する新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面で実施する活動やイベントが制限されましたが、オンラインでもより効果的に行なえる啓発活動のあり方を模索するなど、支援活動の選択肢や可能性を広げる良い機会となりました。2022年度は事業活動やグローバル全体での一体となった活動推進に向け、方針や目標を整備していく予定です。

社会貢献活動

環境問題

花王国際こども環境絵画コンテスト

サステナブルなライフスタイルの推進

花王は、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考えて表現した作品とその思いが、世界中の人々の心を動かし、サステナブルなライフスタイルを実践するきっかけとなることを願って、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を実施しています。

第12回コンテストの実施

2021年もコロナ禍での実施となりましたが、世界の子どもたちから、7,009点(日本689点、アジア・太平洋6,090点、米州29点、欧州87点、中東70点、アフリカ44点)の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、12月に、社内外審査員による最終審査が行われ、“いっしょにeco”地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀賞〈審査員推薦作品〉6点、優秀賞17点が決まりました。コロナ禍のため、上位入賞者の日本招待と会場での表彰式は中止し、2022年3月27日にオンライン形式での表彰式を実施しました。



“いっしょにeco”地球大賞
「人と動物、そして自然との友情」
Selen Arami さん(7歳)



第12回花王国際こども環境絵画コンテスト 審査の様子

絵画を活用した環境啓発の新しい取り組み

コロナ禍で外出機会が減る状況であっても、より多くの人に、楽しく入賞作品とメッセージに接していただくことをめざして、バーチャルでこれまでの入賞作品とメッセージを閲覧できる「こども環境絵画ミュージアム」を花王ウェブサイトにて公開しました(本年は日本語版のみ)。

また、6月には、東京駅直結の行幸地下通路ギャラリーにて、拡大絵画パネルとメッセージボードを用いたテーマ企画展示「世界の子もたちの未来への願い」を開催しました。人を集める環境施設ではなく、不特定多数が通行する場にて、インパクトのある環境啓発メッセージを発信する機会となりました。



花王国際こども環境絵画コンテスト
こども環境絵画ミュージアム
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/painting-contest/



テーマごとに作品を展示
遠くからでも目にとまる拡大展示とメッセージ

社会貢献活動 203-1

NPO・行政等と協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージを多くの人に伝えるために、これまでの入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

NPO法人ビーグッドカフェを事務局として、自治体環境関連施設やNPO、教育施設などを対象に行なっている絵画の無料貸出活動は5年目を迎え、2021年の貸出先は、19の施設・団体におよび、来場者数の合計は28,993人となりました。2020年の相次ぐ施設閉鎖による展示中止の状況と比較すると、来場者の数が回復傾向を見せました。

花王グループカスタマーマーケティング株式会社も、絵画貸出・展示活動を新たな形で開始しました。本年は、6カ所での社内での展示に加え、日本全国24の自治体環境施設や店頭での絵画展示イベントを開催し、来場者は13,000人を超えました。また、自治体がウェブ開催した環境イベント6件にも、絵画やメッセージを出展し、「子ども環境絵画ミュージアム」へのリンクも活用しました（環境の日ひろしま、とやま環境フェア2021、エコメッセ in ちば、やまがたハイブリッド環境展、おうちで環境デーなごや2021、環境フェスティバルふくおか2021）。花王の展示サイトのページビューは約13,000にのびました。



絵画展示の様子。北九州市エコタウンセンター(9月)



奈良公園バスターミナル(11月)

未来洗淨研究会

サステナブルなライフスタイルの推進

2018年に、花王とフューチャー・アース、東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（現：東京大学 未来ビジョン研究センター）が設立した

「未来洗淨研究会」は、「世界中の人々がサステナブルに清潔に快適に暮らせる社会」をめざし、事業領域や学問領域の枠を越え、産学公民等のさまざまな知恵を集めて、未来の洗淨について議論や提案をしています。

2021年5月にはセミナー「サステナブルな洗濯を考える(4)～洗剤の視点から～」を、6月にはセミナー「サステナブルな洗濯を考える(5)～洗剤の容器の視点から～」を、オンラインにて開催しました。両回とも、アカデミア、企業、NGOなどから計3題の講演と、パネルディスカッションを行ないました。企業、大学・研究関係者、環境団体などから各セミナー160名以上の参加者がありました。またパネルディスカッションではZ世代のパネリストも参加し、洗淨や洗剤容器に関わる多面的な議論が展開され、セミナー参加者から好評を得ました。

また、未来洗淨研究会のウェブサイトでは2020年よりブログページを公開しています。2021年はフューチャー・アースが発行している雑誌『Anthropocene Magazine』から洗淨に関わる情報を選び計14報を掲載しました。



社会貢献活動 203-1, 304-3, 413-1

中国節水キャンペーン

サステナブルなライフスタイルの推進

花王(中国)投資は、中国生態環境部宣伝教育センターと共催で、2012年から「中国清潔・節水キャンペーン」を実施しています。2015年からは、活動の一環として、大学生の環境保護コンテストも開始し、中国国内における、一般市民および大学生の節水意識を喚起する活動として、展開してきました。

10年目に入った2021年は、テーマを「清潔で美しい中国へ(清潔美丽中国行)」として、7月24日から開始、雲南省昆明市にて開会式を開催しました。中国全土の大学生を対象に「節水と水源保護」「生物多様性」「低炭素」「脱プラ」「持続可能な発展」など多岐にわたるテーマで活動企画案を募集したところ、22の省や市にある79の大学から129件の活動提案を応募いただきました。その中から10のプロジェクトを選出して、実行支援を行ないました。全国の大学生たちは、自ら企画した活動を実践することによって積極的に環境保護に取り組み、さらに、周りの人々の環境意識を向上させるためにさまざまな活動を展開していました。12月には10年目の活動が閉幕し、専門家による審査とインターネット投票により、オンラインで優勝大学の結果を発表しました。



雲南省昆明市での開会式の様子

タイ北部 “FURUSATO” 環境保全プロジェクト

脱炭素

タイ北部における急激な森林減少・破壊と、それが引き起こす水害・煙害等の環境問題の改善をめざし、花王は公益財団法人オイスカ、オイスカタイランドとの協働で、2012年からタイ北部チェンライ県チェンコン郡で、環境保全プロジェクトを実施しています。2012年からの5年間で、目標としていた35ヘクタールに42,500本の植林を完了しました。活動を通じて、地域の人々の環境保全に対する意識が高まり、森を適切に管理し、生活の基盤づくりに活かそうという機運が生

まれたことから、2019年4月より、第2期の支援を開始しました。

第1期で整備した植林地では、森の管理に加えて作物の栽培が行なわれています。食糧にできるもののほか、市場で販売できる作物を植えることで森の価値を高めて、住民の森への関わりを深めながら管理を進めています。また、第2期の植林地は、住民による管理が引き続き実施され、苗木も順調に成長しています。

プロジェクトに関わる住民にアンケートを実施したところ、整備された森による作物の販売などで生活の基盤が整ってきたとの声が多くあり、森とともに暮らしが豊かになっている様子がうかがえました。



大きく成長した第1期の森の樹木の様子

社会貢献活動 304-3

花王・みんなの森づくり活動

脱炭素

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐことを目的に、公益財団法人都市緑化機構と連携し、環境を守り育てる人づくりのための助成プログラムを実施しています。全国から森づくりや環境教育などに取り組むNGO／NPO・市民団体を公募し、毎年20件程度を選定、3年間の継続助成を行なっています。また、環境保全活動を通じて現代の地域社会が抱えるさまざまな課題解決への貢献や地域のよりよいコミュニティ形成にも寄与しています。

2021年は、新型コロナの感染拡大防止の観点から現地訪問を見送り、オンラインを活用しながら助成先団体から現地の様子や活動の進捗状況などを伺いながら交流を重ねてきました。2022年3月末の活動終了に伴い、これまでの活動で得られた成果をとりまとめ広く発信していくとともに、今後のよりよい環境づくりに活かしていきます。



支援先団体の植樹活動

社会貢献活動 203-1

パンデミック

花王・ベトナム衛生プログラム

QOLの向上

清潔で美しくすこやかな習慣

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を実施しています。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「楽しい手洗い教室」「学校衛生プロジェクト」の4つの取り組みで構成されています。

衛生管理リーダー育成プログラム

病院内の感染管理・衛生環境の向上に向けた取り組みを、ベトナム ハノイ医科大学と協働して進めています。2021年は、前年に実施した手指衛生遵守率向上に向けた取り組みをさらに広げることを検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、病棟での具体的な取り組みを行なうことができませんでした。

衛生奨学金制度

ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していくことをめざしています。神奈川県立保健福祉大学と協力し、大学内に「花王衛生奨学金」を設け、留学生

に奨学金を提供しています。

2020年3月に1人目の留学生が、2022年3月に2人目の留学生が神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程を卒業しました。

楽しい手洗い教室

ハノイ医科大学と協働し、2020年より小学生向けの手洗い啓発活動を行なっています。2021年は、2020年に実際に2つの小学校で実施した啓発活動から得られた知見を活かし、ハノイ市内の小学校で、より広く啓発活動を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う小学校の閉鎖により、実際の小学生向けの啓発活動を展開するには至らず、教材の改善を行なうにとまりました。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

経済格差の大きいベトナムでは、特に山間部や農村部、少数民族が多い地域の衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。

花王は、2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から少数民族が多い北部山岳地域、ディエンビエン省に支援を拡大しました。

2021年は、ディエンビエン省内3県7つの自治体で教員やボランティア指導員、保健師計48名に対して、学校主導の衛生セッション実践のための指導者向け研修を実施しました。また、省内7校600人の生徒に、水と衛生に関する理解度の現状を把握するための小規模調査を実施し、結果に基づいてそれぞれの学校ごとに活動計画を策定しました。

その他、ディエンビエン省中学校7校(生徒2,396人、教員230人)において、学校主導の衛生トリガリングセッションを実施しました。野外排泄や排水などが環境や健康にもたらす影響や、石鹸を使った正しい手洗いの方法について学び、衛生習慣の向上をめざしています。

くわえて、省内9つの自治体の全幼稚園を対象に実施した現地調査で清潔な飲料水確保状況への課題を把握。22の幼稚園と小学校に計333個の浄水器のセラミックフィルター用コアを提供し、生徒7,872人、教員492人が清潔な水を継続して使用可能になりました。また、「世界手洗いの日」にあわせて、ディエンビエン省内20校で18のイベントが開催され、6,000名以上に手洗いの大切さを直接伝えたほか、省のテレビ番組を通じてイベントの様子や省関係者のスピーチなどが放映され、さらに多くの市民にメッセージが届けられました。

社会貢献活動 203-1

2022年は課題の大きいほかの地域も含めて、引き続き学校やコミュニティでの衛生環境改善や衛生習慣の促進に取り組みます。



ディエンビエン省での衛生トリガリングセッションの様子
©Dien Bien CDC/Hua Tung Bach

月経教育・ 月経衛生環境向上への貢献

QOLの向上

清潔で美しくすこやかな習慣

日本の女子小中学生に向けた初経教育

花王は、1978年の生理用品の発売以来、40年以上にわたって初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

日本では、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れた初経教育セットを小学校に無償で提供しており、2017年からは公益財団法人日本学校保健会と連携し全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。

2021年は、11,256校へ配布しました。また、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訊CDは、ご要望を受け2021年は4校に新たに送付しました。

インドネシアの中学生に向けた月経衛生教育

2018年よりインドネシアにおいて、国連児童基金(ユニセフ)による「月経衛生管理プロジェクト」の支援を行なっています。

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に1人が初経までに月経の知識がなく、さまざまな迷信や偏見も依然として存在しています。また、学校における教育や衛生環境が十分に整っていないため、6人に1人が月経時に少なくとも1日は学校を休むという現実があり、女子生徒の出席率低下の一因になっています。

2020年を最終年として計画していましたが、コロナ禍で学校の休校が続いたことから、期間を半年間延長し2021年6月にすべての計画が完了しました。3年半で、支

援するタンゲラン県の公立中学校およびマドラサ(イスラム系学校)40校の男子生徒含む約20,000人の生徒に授業を行なうなどアプローチし、目標は達成されました。

2019年に完成した教育冊子は、3県の65校に配布され、マドラサが活用するウェブサイトにも掲載されるなど活用が広がりました。

また、ティーンエイジ保健促進団(キャドリ)の生徒を対象とした研修がオンラインで実施され、支援校40校のキャドリのメンバー200人のほか、月経衛生管理の問題に関心を持つ男女生徒812人の計1,012人の生徒が参加しました。その後、担当教官の支援を受けて、生徒主導の月経衛生キャンペーンが計画・実施され、オンラインおよびオフラインでの集会を120回以上開催、教員約125人と保健促進団の生徒200人が関与し、集会を通じて20,000人の生徒にアプローチしました。さらに、動画を中心とした月経衛生管理のための啓発ツールが数多く制作され、YouTubeやTikTokといったソーシャル・メディアを通じて配信されるなど、生徒たちの自発的な活動を生んでいます。

これらの活動を通じて、エンドライン調査では、「月経は正常なこと」という認識の指数が81%から94%に大きく向上しました。また、女子生徒の生理用品の交換頻度が上がるなど、月経期間のより衛生的な習慣への行動変容につながっています。

社会貢献活動 203-1, 413-1

ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

花王は、2019年2月より、国連人口基金（UNFPA）とパートナーシップを組み、ウガンダで低価格な国産生理用ナプキンの製造・販売をめざす若手社会起業家が立ち上げた企業「エコスマート」を支援しています。

アフリカには、貧困により生理用ナプキンを購入できず、使い古した布の切れ端や植物の葉などで代用している女性が多くいます。その結果、深刻な感染症にかかるケースが見られます。また、生理用ナプキンを使用できないために生じる衣類の汚れを気にして学校を休み、授業についていけなくなって退学することも少なくありません。

花王は、支援によりウガンダの女性が継続的に生理用ナプキンを使用できるようになり、月経期間をより衛生的で快適に過ごせるようになることを期待しています。月経期間中も休まず学校に通い、男女ともに等しく学べる環境は、社会全体のさらなる発展に寄与すると考えています。

2021年、エコスマートは、花王との情報交換や技術アドバイスを受け、生産ラインでの品質管理体制や環境整備、生産効率向上のための設備取得、包装メーカー選定、使用調査の準備など上市に向けた活動を進めてきました。

これらのプロセスを通じ、チームメンバーや地元関連

企業の能力開発、地域の人々の雇用にも貢献しています。

今後は、使用調査などを経て、現地向け生理用ナプキンの発売をめざし、より多くのウガンダの女性の清潔と健康に貢献していく予定です。



生産現場で防護服に身を包むエコスマートチーム
©EcoSmart Uganda

教材提供による学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

→ 快適な暮らしを自分らしく送るために>清潔で美しくすこやかな習慣
P45

社会貢献活動 102-43, 203-1

多様化の影響

ピンクリボンキャンペーンを通じ、がん教育を支援

QOLの向上

2007年から、毎年10月～11月の2カ月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の啓発のため、国内外でさまざまな取り組みを展開しています。

日本での主な取り組みの一つとして、認定NPO法人乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を支援しています。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかるとされる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2021年は、化粧品ブランド「KANEBO」にて対象商品の売上から一定額を「がん教育プロジェクト」に寄付しました。2013年から継続している取り組みで、毎年対象商品を設定し、乳がんの啓発に関わる活動を支援しています。また、生理用品ブランド「ロリエ」では女性の健康を応援するキャンペーンを実施し、商品やブランドサイトを通じた情報発信のほか、クリック募金

による寄付を実施。こちらも「がん教育プロジェクト」のほか、子宮頸がんの啓発を行なう活動に寄付しました。

また、社員とその家族に向けたピンクリボンセミナーをオンラインで実施しました。乳がんは、かかる可能性がある人だけの問題ではなく、罹患した人をサポートする立場として関わる可能性もあり、すべての人が自分ごととして考える機会をめざして実施しました。その他、社員参加型の寄付プログラムや、特例子会社花王ピオニー(株)とコラボレーションしたピンクリボンキャンペーンビジュアルの制作などを実施し、積極的な啓発活動を行ないました。

さらに、海外を含めた一部化粧品店頭やオンラインメディアを活用した啓発活動、異業種企業とのコラボレーション企画など、少しでも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。

→ 快適な暮らしを自分らしく送るために> QOLの向上> ピンクリボン活動を通じて女性の活躍を支援

→ 正道を歩む> 受容性と多様性のある職場> Diversity推進活動> 障がいのある社員の活躍推進> 新たな挑戦(花王ピオニー)



花王ピオニーと制作したキャンペーンビジュアル



ピンクリボンアドバイザーによるがん教育授業

社会貢献活動 203-1, 417-1

一般社団法人 日本ボッチャ協会に協賛

QOLの向上

花王は、パラスポーツの「ボッチャ」を通じ、誰もが安心して暮らせる共生世界の実現と多様化という社会の課題解決に社員とともに取り組んでいます。

2021年度も引き続き、コロナ禍において、選手の強化活動や大会開催が安心・安全に実施されるように、衛生製品を提供するなどのサポートを行ないました。

(ボッチャ東京カップ2021本大会、東京2020パラリンピック競技大会開催期間中、ボッチャ東京カップ2022予選大会、ジャパンオープンチャンピオンシップ2021において消毒液などの衛生製品を中心に提供)

また、東京2020パラリンピック競技大会は、共生社会の理解浸透とボッチャという競技の普及・振興を促進するための契機と捉え、まずは社員に向けて、協賛実施の意義、選手のボッチャを通じて発信したい思いなどについて、定期的でタイムリーな啓発の情報発信を行ないました。(社内向け5回)

この啓発活動を、アフターコロナに加速させるために、社内の複数の部門と連携した活動を検討し、2022年度から実施していく計画です。この啓発のアンバサダー

となる社員に対して、12月には、日本ボッチャ協会のスタッフによる講習会を、感染対策を講じながら対面式で実施しました。参加した社員からは、「学校教育の場でボッチャを紹介する活動を実現したいと感じました。若い世代のダイバーシティの意識を高めることにつながると思います。」など、社内外に広げていく意識をもつ機会となりました。

ボッチャを通じ、社員とともに共生社会の理解浸透に取り組んでいきます。



誰もが参加できる大会のボッチャ東京カップは感染対策を講じて開催



社内で開催した講習会では、社員がボッチャの競技理念を体感

情報のバリアフリー

ユニバーサル プロダクト デザイン

花王は、日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるようにバリアフリーを推進し、その理解をめざす活動を行なっています。

特に情報化が進む中で取り残されがちな、視覚障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーに取り組み、製品の点字シールの無償提供や生活情報を音声化して提供する取り組みを行なっています。

また、さまざまな障がいのある方々の生活の不便さを伝え、理解を図る内容のバリアフリービデオを学校等へ寄贈し、総合学習の教材として活用されています。

福祉施設への寄贈では、社会福祉協議会と連携し、選定した団体や社会福祉施設と民間が運営する滞在型施設に花王製品を寄贈するにあたり、コロナ禍で必要とされる衛生関連製品を中心に提供し、お役立ただいています。

2021年は、初経教育の支援活動の一環として、情報が不足しがちな視覚に不自由のある子どもたちやその家族、教育関係者の希望者に向けて、啓発用小冊子「か

社会貢献活動

203-1, 417-1

「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを4件提供しました。

その他、点字シール(家庭品用/化粧品用)の無償提供85件、バリアフリービデオの寄贈5件、貸出11件、福祉施設への製品寄贈を2回実施しました。日本点字図書館が発行する点字・録音による生活情報誌「ホームライフ」9月号、11月号に、生活情報を提供するとともに、社員ボランティア3名が音声情報の収録に協力しました。



点字シール(家庭品用)



「からだのノート おとなになるということ」音訳CD

社会貢献活動 203-1

テーマ横断

花王社会起業塾

QOLの向上

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施しています。

「これからの新しい生活文化をつくる」をテーマに、生活者に寄り添い、よりよい暮らしに向けた基盤づくりに取り組む社会起業家を支援しており、約7カ月にわたり、専門家からのアドバイスを受ける機会や合同研修、人的交流・ネットワークの場を提供し、事業の軸づくり、成長を加速させる支援を行なっています。なお、運営は社会起業塾イニシアティブ*が行なっています。

2021年度は以下の3組を採択しました。(2021年度を含め、これまでに35組を採択)

*特定非営利活動法人ETIC.(エティック)と複数企業が連携して社会起業家を育成・支援するプラットフォーム

・葦苈 晟矢(あしかりせいや)さん(株式会社エコロギー 代表取締役 CEO)

「コオロギを活用した資源循環型の食料生産システムの確立」

・那須 かおりさん(一般社団法人4Hearts 代表理事)

『「スローコミュニケーションプロジェクト」まちにスローな心を』

・松丸 実奈さん(特定非営利活動法人にこり 理事長)
「全ての子どもたちが、いっぱい笑って遊べる毎日を」

今年度は開始から10年間の活動を振り返り、花王社会起業塾が社会や社内に与えてきたインパクトについてまとめ、「花王社会起業塾インパクトレポート」として9月にリリースするとともに、自社のウェブサイトでも公開しました。

それによると、卒業生の事業継続率は97%と非常に高く、また卒業生の予算規模やスタッフ数の平均成長率は約3倍となりました。加えて、自団体の事業拡大のみならず、国や自治体の政策・事業に影響を与えたり、ノウハウの水平展開を実現するなど、ステークホルダーと連携・協働しながら社会の変化に貢献していることがわかりました。

また、2012年からは、社会起業家と社員交流活動を継続的に行ない、社員の社会課題の理解や起業家精神を学ぶ機会を提供してきました。2020年度までにのべ679名の社員がイベントに参加し、2012年度から2020年度までの平均で「とても良かった」および「良かった」と回答した参加者の割合は96%に達しており、全体として非常に高い満足度を得ることができ、社員の意識や行動の変容へとつながっています。



花王社会起業塾インパクトレポート
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/impact-report-01.pdf

また2021年度も、採択した社会起業家たちと社員との交流活動に注力しており、以下2回のイベントを開きました。

「社会起業塾キックオフ研修」の特別講座

花王社会起業塾生が初めて受ける研修を社員がオブザーブ参加できるオンライン企画。10月1日にオンラインで開催し、花王社員81名が参加しました。

社会貢献活動

地域との共生

芸術文化活動支援

優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援しています。

交響楽団への賛助や音楽・舞台芸術公演、美術展への協賛を行なうなど、あらゆる世代の人々に芸術に親しんでいただき、次世代に優れた芸術文化活動が継承されるよう、積極的に支援を行なっています。

2021年は、コロナ禍で影響を受ける芸術文化分野の支援を継続して実施しました。協賛を予定していた美術展は延期となりましたが、音楽分野では、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団への賛助、NHK交響楽団ベートーヴェン「第九」公演の協賛、新国立劇場2020/2021シーズンと2021/2022シーズンの特別支援企業グループ協賛を行なっています。

若手芸術家育成支援

豊かな生活文化の実現に貢献するために、次世代を担う芸術家育成の活動を支援しています。

東京音楽コンクールの主催

2003年より、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成の活動を支援しています。各部門優勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会を提供し、東京文化会館が5年間バックアップを行なうなど、育成に重点をおいた支援が特長のコンクールです。

2021年度は、コロナ禍でありながらも、感染対策を講じて予定通り開催しました。4月に弦楽、木管、声楽の3部門の応募を受け付け、3部門の応募総数は423名、8月の本選において8名の入賞が決定しました。

また、2021年度は、過去の実績者6名が国内外のコンクールにおいて優勝、上位入賞を果たすなど、素晴らしい活躍をしました。



第19回東京音楽コンクール弦楽部門表彰式
写真:堀田力丸/写真提供:東京文化会館

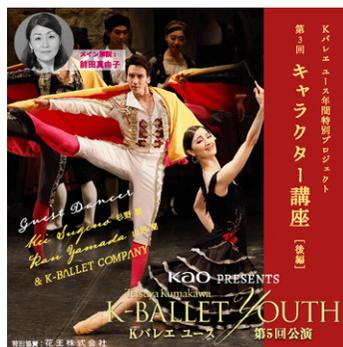
K-BALLET YOUTH 年間特別育成プロジェクトへの特別協賛

花王は2013年より、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー K-BALLET YOUTH の公演に特別協賛しています。

これは、次世代の才能あるダンサーの発掘とプロフェッショナル・バレエカンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組む K-BALLET YOUTH の趣旨に賛同することによるものです。

K-BALLET YOUTH が2021年に開催予定だった第5回特別記念公演「ドン・キホーテ」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、2022年に延期されることになりました。K-BALLET YOUTH は、このような影響を受ける若いダンサーに対して、オンラインを活用して芸術の学びの場を提供する年間特別育成プロジェクトを、2020年8月から2021年5月まで実施しました。オンラインによるワークショップの録画動画はYouTubeでいつでも視聴できるため、子どもたちの技術習得の向上だけでなく講師の効率的な指導も可能になるなどの効果がありました。技術指導を公開し、2022年開催の公演の出演オーディションの応募を系列校以外からも受け付けるなど、多くの子どもたちのチャレンジにつながる取り組みを支援しています。

社会貢献活動



花王では、五嶋氏が海外の若手演奏家とカルテットを結成し、アジアの開発途上地域に生演奏を届け、音楽を通じた国際交流を図るプログラム「ICEP」に2008年より協賛しています。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大により実施できませんでしたが、コロナ禍でも一人でも多くの子どもたちにオンラインを活用して音楽を学ぶ機会を提供するために、日本国内の特別支援学校などを中心に「リスニングプログラム」を実施し、このプログラムに協賛しました。

五嶋氏による指導動画を10回シリーズで制作し、過去の指導プログラムを実施してきた72施設のほか、日本の学校や病院、アメリカ・オランダ・カンボジアなどの日本人学校にも配信しています。配信先の特別支援学校からは、「コロナ禍で外部講師の招へいが難しい中、充実した内容の動画配信は非常に助かった」との声が寄せられました。

「リスニングプログラム」への協賛は継続し、2022年9月まで実施されます。



リスニングプログラム本編動画 (イメージ)



鑑賞の様子

芸術文化活動支援の再構築の実施

花王では、優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援してきました。日本の芸術文化活動の基盤を支える支援も一部継続しながらも、地域社会を活性化させるプログラムや次世代育成のプログラムへの支援に軸足を置き進化させていくべく、芸術の力で、社会が持続的に豊かになるよう活動の再構築を行なっています。

NPO法人ミュージック・シェアリング指導プログラムへの協賛

NPO法人ミュージック・シェアリングは、ヴァイオリニストの五嶋みどり氏が1992年に設立し、理事長を務める認定NPO法人です。本物の音楽・音楽家をもっと人々に身近なものになるようにし、豊かな人間性をめざす環境づくりを支援しています。

社会貢献活動 203-1

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術文化と科学技術の振興および発展向上とともに、文理融合領域の研究発展にも寄与することをめざす、芸術と科学の支援をあわせ持つユニークな財団です。

1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け設立され、「助成事業」「顕彰事業」「関連事業(文理融合の研究支援)」の3つの事業を柱に活動しています。

助成事業の芸術文化部門では、美術展覧会や音楽公演等の活動助成、美術や音楽の学術的な研究への助成を、科学技術部門では大学院修士課程の学生に対する給付型の奨学金支援や、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行なう若い研究者に対し「花王科学奨励賞」という名の助成を行なっています。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた研究者に「花王科学賞」を贈り、称えています。

2021年度はこれまでの事業に加え、新たに女性研究者のワーク・ライフ・バランスに配慮し、研究の継

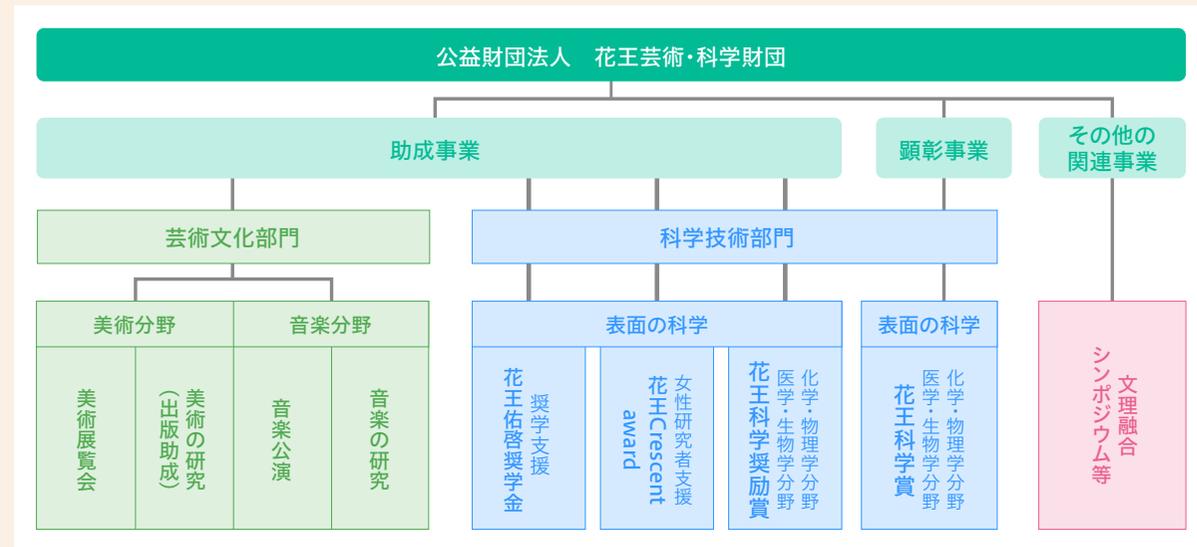
続を助けるための用途自由度の高い助成事業「花王 Crescent award」を立ち上げました。

資金的な支援のほかに、女性研究者どうしの横のつながりを醸成し、研究継続のモチベーション向上にも取り組んでいきます。

日本では研究者総数に占める女性研究者の割合(特に工学・理学分野)が他国に比べて低い現状と、

任期付き雇用の研究者がライフイベント等により研究継続を断念せざるを得ない状況があります。この新事業により任期付き雇用の優秀な女性研究者が研究継続できるロールモデルを増やして次世代へとつなぎ、日本の科学技術研究の振興・発展向上に寄与するとともに、男女共同参画社会の形成を促進し、よりよい社会の実現をめざしていきます。

財団事業組織図



社会貢献活動

花王ファミリーコンサート

花王では、事業場地域の皆さまに質の高い音楽に触れる機会を提供し音楽や芸術を楽しむ心を育てていきたいとの思いから、2002年より、「花王ファミリーコンサート」を開催しています。

このコンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならではのプログラムで、企画から当日の運営をすべて社員が行なっています。

2002年からの累計公演数は44公演、累計来場者数は41,327人となります。また、コンサートの収益金は全額、地域の音楽教育に役立てていただいています。

2021年は、山形県酒田市と栃木県益子町の2カ所の開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、当年度の開催は見送りとなりました。

花王ファミリーコンサートについては、地域活性化と次世代育成に貢献するプログラムへ進化させるべく、地域の巻き込みと社員の新たな参加を促進させるプログラムの将来像を描き、2022年度より実行していきます。社員とともに持続的に豊かである地域社会づくりをめざします。

JSEC (高校生・高専生科学技術チャレンジ)

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。

その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)」(主催：朝日新聞社、テレビ朝日)に特別協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しており、賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文の審査をはじめ、最終審査会では高校生のプレゼンテーションと質疑応答を経て審査を行ないます。

「JSEC2021」の最終審査会は、2021年12月11日、12日にオンラインを活用して実施され、花王賞として、玉川学園高等部が、花王特別奨励賞として島根県立浜田高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校が受賞しました。

JSECの上位入賞者は、2022年にオンラインを活用して行なわれる国際学生科学技術フェア(ISEF)への出場資格が与えられ、花王賞を受賞した玉川学園高等部の松井了子さんが出場する予定です。その他、受賞校の皆さまと花王の研究員との交流を図る企画を開催し、

高校生のキャリア教育支援にもつなげていきます。

・花王賞：

「熟成梅酒が琥珀色になる理由」
玉川学園高等部(松井了子さん)

・花王特別奨励賞：

「どこにでも貼ることのできる1.7V超分子色素太陽電池」
島根県立浜田高等学校(木村香佑さん、木原萌伽さん、鍵山創直さん)

「STFTによるハクセンシオマネキ(Uca lactea)の理想的な求愛ダンスの解析」
宮崎県立宮崎北高等学校
(黒木美花さん、猪股聡太さん)



花王賞の表彰

社会貢献活動 413-1

2021年7月29日に「JSEC2020」の花王賞・花王特別奨励賞受賞校の皆さまとの「研究交流会」をオンラインで開催し、57名の社員や朝日新聞社など、総勢71名が参加しました。当日は、花王の研究開発についての紹介や各受賞校の皆さまによる研究内容の発表がありました。花王の審査員や参加者との質疑応答や意見・情報交換が積極的に行なわれ、非常に活発な交流会となりました。

また、今年度は新たな取り組みとして、高校生の今後のキャリアの参考になるよう、「エコラボミュージアム」のオンライン見学や「若手研究員との交流」の機会を設けました。

参加された高校生の方からは、「研究をさらに発展・飛躍させていくためのアドバイスをいただけて、とても勉強になった。」「最前線で研究している方々から自分が持っていない視点で意見をいただき本当にありがたかった。」などの声をいただきました。



「研究交流会」に参加された各受賞校の皆さまと花王の審査委員等

工場・ミュージアム見学を通じた学校教育支援

清潔で美しくすやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

生活に身近な商品を生産、提供する企業として、モノづくりの工夫や品質、安全・安心のための努力、環境への配慮を学んでもらうため、ミュージアムや工場見学を通じた学校教育の支援を行なっています。

特に、小学校の社会科単元(3年:働く人と私たちの暮らし、5年:私たちの生活と工業生産)に連動したプログラムを開発し、事前・事後の学習も含めた教材の提供、工場見学を含む、学習型の社会科見学プログラムを実

施しています。プログラムを通して、子どもたちが社会との結びつきに気づき、自ら考える力を育むことをめざしています。

2021年は、継続する新型コロナウイルス感染症の流行により、国内9工場と2ミュージアムの見学は限定的に実施され、全体で7,889人、そのうち、7,535人はオンラインでの見学となりました。小学校の社会科見学プログラムも現場での受け入れはできませんでしたが、オンラインでの見学に、31校1,932人の生徒が参加しました。リモート環境が整ったことが新たな試みにもつながり、東京工場では、生産現場の若手社員が中心となったオンライン授業が実施されたり、花王ミュージアムでは「洗濯方法の変化」などのテーマでのオンライン授業が実施されました。

社会貢献活動

ロジスティクスを通じた安全啓発

サステナブルなライフスタイルの推進

花王ロジスティクス(株)では、トラックでの配送業務を行なっていることから、交通安全には日頃から細心の注意を払うとともに、交通安全に関連する啓発活動やイベントを行なっています。

近年は全国7拠点の地域内にある小学校の児童を対象に、子どもの命を守る地域貢献活動として「こども交通安全教室」「ながら見守り活動」「交通安全指導」などを継続して実施しています。

また、地域児童が交通安全をテーマに描いた絵で、配送トラックにラッピングを施し、交通安全を呼び掛ける活動も展開しており、2021年は、石狩、鎌ヶ谷(沼南)、八王子、川崎、坂出、広島のリロジスティクスセンターで、各地域の小学校、教育委員会、自治体、警察署などと連携して実施されました。

交通事故による死傷者半減はSDGsの目標にも設定されていますが、これらの活動は、ドライバーの意識向上や、ラッピングトラックを見た配送地域の方々の交通安全への関心向上にも役立っています。



地域の児童が交通安全をテーマに描いた絵を配送トラックにラッピング
(石狩ロジスティクスセンター)

社会貢献活動

災害支援

東日本大震災への取り組み

既存の社会貢献のプログラムや花王のリソースを活かしながら、NGO／NPO、企業、多様な組織と連携し、被災地の生活者に寄り添い、現地のニーズや課題に沿った活動を実施しています。

現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つの柱に取り組んでいます。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年から協賛し、仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施しています。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を行なっています。花王社員による2021年の活動は以下の通りです。

復興応援企画を開催(全国事業場11カ所)

いつまでも震災を忘れないという思いのもと、より広く社員が東北に関わる機会として「東北と『食』でつながろう！」をテーマに、3月8日～12日、全国事業場11カ所の食堂で、新型コロナウイルスの感染防止策をとり、「黙食」を徹底しながら、東北の食材を使用した郷土料理等の提供を行ないました。在宅勤務の社員も自宅から気軽に参加できるよう「写真」の投稿企画も同時

開催。社員からは「東北の食をきっかけにぜひ現地を訪れてみたいと思った」「これからも自分にできることで東北を応援していきたい」などの声が寄せられました。



東北のメニューを選ぶ社員たち

スマイルとうほくプロジェクト

岩手日報、河北新報、福島民報が主催する「スマイルとうほくプロジェクト」に継続して協賛しました。

イベントの実施

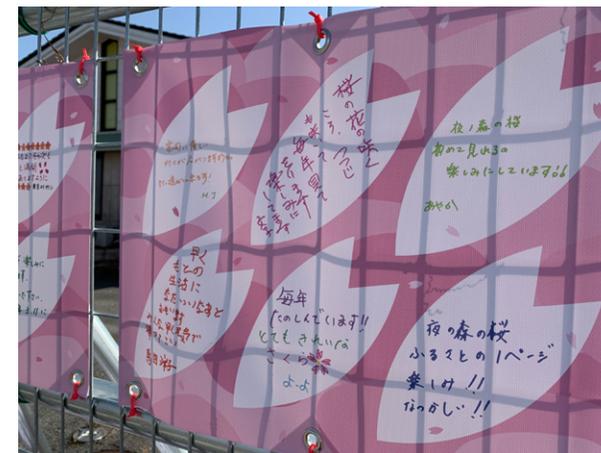
各県で予定していたイベントをさまざまな形でサポートする計画でしたが、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベントが中止、現地へ訪問しての活動が困難な状況が続きました。

厳しい状況が続く中、地域の皆さまの気持ちに寄り添い、ゆるやかにつながり続ける活動に取り組みました。

福島県富岡町や地元の方々とともに、町の賑わいの

ために取り組む「カラフルとみおかプロジェクト」を応援するなど現地プロジェクトメンバーやNPO、グループ社員などの協力を得ながらサポートを実施しました。

今年は思うように桜の季節を楽しむことができなかった皆さまに桜のトンネルと富岡町の方々の笑顔をお届けするため、スペシャルムービーを撮影・配信したり、宮城県沿岸を走る自転車レース「ツール・ド・東北」が中止となったため、毎年沿道で応援いただく方々に大会予定当日に全国各地の花王グループ社員がそれぞれの場所で思いを届けるメッセージを配信するなどの取り組みを行ないました。



桜並木に続く帰還困難地域のバリケードに有志から集めたメッセージを掲出して応援

社会貢献活動 203-1

みちのく復興事業パートナーズ

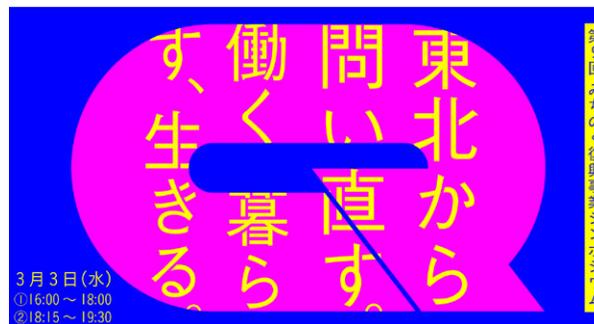
「自立的復興」の大きな活動の一つとして、2012年6月より、「みちのく復興事業パートナーズ」に参画しています。被災地で事業に取り組み東北を支えていく次世代の復興リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、特定非営利活動法人ETIC.〈エティック〉によって設立されたもので、現在、企業4社*が参画しています。将来東北の中心となることが期待される事業団体を育成支援する研修をはじめ、自立的復興に向けた共創を行なっています。

2021年は震災から10年の節目を迎え、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から3月3日に9回目となるシンポジウムをオンラインで開催。

「東北から問い直す。働く、暮らす、生きる。」をテーマとして、東北の未来について広く情報発信を行ないました。

また、6月25日には、『イノベーションと社会ネットワークとの関係を考えるセミナー～「東北リーダー社会ネットワーク調査」分析結果から～』をオンラインで開催し、調査結果を役立てていただけるよう、広く社会に向けて情報発信を行ないました。当日は約80名が視聴しました。

*参画企業は株式会社ジェーシービー、株式会社電通、株式会社ベネッセホールディングス、花王株式会社(2020年5月現在)



その他の災害支援

2021年度の実績

基盤整備活動支援金

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」へ500万円の寄付を行いました。

新型コロナウイルス感染症の対策支援

物資支援

新型コロナウイルス感染症の最前線で活動している医療従事者への支援として、総額約3億円相当の花王製品を、1,092医療機関・105,892名の医療従事者へ寄贈いたしました。